



《全日本中学校長会》 令和7年10月2日(木)

10月 会長メモ

会長 青海 正



10月は、全国から八百万(やおよろず)の神々が出雲大社(島根県出雲市)に集まり、各地の神様が留守にすることから「神無月」と呼ばれます。逆に、出雲は神々が集まることから「神在月」と言われるそうです。様々な学校行事など、教職員にとって多用な時期となりますが、今月23日(木)、24日(金)には、中学校の校長が香川に集まる第76回全日本中学校長会研究協議会香川大会 兼 第59回中国・四国中学校長研究会香川大会が予定されています。心より大成功を祈念いたします。

中央教育審議会 教育課程企画特別部会の論点整理について

令和6年12月の文部科学大臣による諮問やこれまでの検討を総合的に踏まえ、次期学習指導要領に向けた今後の検討の基盤となる基本的な考え方として、以下のように提起されました。

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手を「みんな」で育むため、①「主体的・対話的で深い学び」の実装 (Excellence) ②多様性の包摂 (Equity) ③実現可能性の確保 (Feasibility) の3つの方向性を踏まえて議論を行う。これらの3つの方向性に基づく改善は、教育課程内外のあらゆる方策を用いつつ、三位一体で具現化されるべきものである。このうち、①「主体的・対話的で深い学び」の実装は、現行学習指導要領が目指している、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じた資質・能力の育成について、一層の具現化・深化を図るものである。②多様性の包摂は、多様な個性や特性、背景を有する子供が多くなっている実態に向き合うとともに、こうした多様性を個人及び社会の力に変える観点から、一人一人の意欲が高まり、可能性が開花し、個性が輝く教育の実現を目指すものであり、第一の方向性と両立させることが不可欠な第二の方向性である。③実現可能性の確保は、第一・第二の方向性の両立を支え、実現可能とする観点であり、教育課程以外の勤務環境整備とも相まって審議全体に通底させるべき第三の方向性である。こうした3つの方向性を現時点で端的に表現すれば、「多様な子供たちの『深い学び』を確かなものに」と言える。第一の方向性は「深い学び」、第二の方向性は「多様な子供たち」、第三の方向性は「確かなもの」という言葉に主に託されている。なお、詳しくは、当該の論点整理をご参照ください。

中央教育審議会 教員養成部会の論点整理について

教員養成部会の議論においても、①「主体的・対話的で深い学び」の実装 (Excellence) に対応する論点として、「主体的・対話的で深い学び」を実現できる、専門性を持った質の高い教師を、教職課程を含む免許制度を通じてどのように育成していくか、また②多様性の包摂 (Equity) に対応する論点として、子供一人一人の個性や特性、背景を踏まえた対応が可能な教師をどう育成するか、デジタル学習基盤を前提とした教育方法を身に付けるための教職課程のあり方はどのようなものか、さらに③実現可能性の確保 (Feasibility) に対応する論点として、多くの方に教師を目指してもらうためには、働き方改革を含めどのように教職の魅力向上させていくか、教師が学び続けられる環境をどのように整備していくか、といった点について、教育課程企画特別部会の議論と軌を一にして議論を行ってきたところである。本論点整理案は、答申や教員養成部会における議

論、教育課程企画特別部会における論点整理案の考え方を踏まえ、社会の変化に伴った学びの在り方の 変化にも対応できる、「学び続ける教師」、次期学習指導要領の実施の基盤となる「学びをデザインする高度専門職としての教師」を育成、確保し、学校教育の質の向上を図ることを目的とし、その実現の手段としての多様な専門性を有する 質の高い教職員集団の形成を加速するための方策を、養成・採用・研修の段階ごとに整理した。詳しくは、当該の論点整理をご参照ください。

各地区における中学校長会研究大会について

9月26日、27日の2日間、第66回北海道中学校長会研究大会胆振（いぶり）・室蘭大会が室ガス文化センターを会場に開催されました。北海道各地から320人を超える会員の皆様が集まり、とても熱心に研究協議が進められました。会の冒頭で、本大会長でもある山田誠一北海道中学校長会会長からは、我々校長に向けた自覚と責任、力強い思いが述べられました。2日目には研究主題「『豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育』のもと全日中提案説明や、パナソニック I T S株式会社 代表取締役社長 田辺 孝由樹 様 による記念講演が行われました。ご講演では「社会の創り手を育てる中学校教育に今、必要なこと そして、期待すること」～変革を成し遂げるリーダーシップ・アントレプレナーシップ～夢ある場所に人は集まる～をテーマに貴重なお話をうかがうことができました。各地で行われるこうした校長会の地道な活動こそが、明日の中学校教育を切り拓いていくものとあらためて確信しました。

さて、ここまで全国6地区で開催された校長会の研究大会が終了しました。全ての地区の研究大会に参加させていただき、それぞれ工夫・改善された組織・内容・方法などについては、次年度以降の各地区の大会運営の参考になりました。各地区とも企画・準備・運営にあたっていただきました実行委員会をはじめ、大会関係者の皆様に心より敬意を表します。

各教育関連団体の活動について

9月に各教育関連団体等の活動について、以下のとおり参加しておりますので参考までに紹介させていただきます。

名 称	開催日	
中央教育審議会 教員養成部会（第154回）	9月1日（月）	会長
中央教育審議会 企画特別部会（第12回）	9月5日（金）	会長
関東甲信越地区中学校長会第2回理事会	9月5日（金）	事務局長
国立教育政策研究所評議員会（第1回）	9月5日（金）	会長
全日中役員OB会第43回総会 オリセン	9月12日（金）	会長
中央教育審議会 教員養成部会（第155回）	9月19日（金）	会長
中央教育審議会 企画特別部会（第13回）	9月19日（金）	会長
中央教育審議会 総則・評価特別部会（第1回）	9月24日（水）	会長
中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会（第135回）	9月25日（木）	会長
第66回北海道中学校長会研究大会胆振・室蘭大会	9月26日（金）27日（土）	会長、事務局長
文部科学省 令和8年度概算要求説明会	9月30日（火）	会長、事務局、他

奥能登豪雨から1年の被災地について

昨年9月21日、地震からの復興途上だった奥能登の被災地を線状降水帯による猛烈な雨が襲いました。28の川が氾濫し、災害関連死を含め19人が犠牲になりました。住宅への被害は1900棟以上に上りました。豪雨から1年となった21日、石川県の馳浩知事は「まだまだ復旧の途中、復興にはほど遠いという現状もあります。1日1日目途立ててです。復旧復興に進むことができるように、輪島市などと連携しながら取り組んでいきたいと思っています。」と、黙祷を捧げ、早期の復興を誓っていました。全日中としましても、早期の復興を心よりお祈り申し上げます。